

令和6年度第2回神奈川県公私立高等学校協議会
議 事 録

- 1 日 時 令和6年7月31日(水)
10時00分～11時00分
- 2 場 所 神奈川県私学会館 4階 講堂
- 3 出席委員等 田沼 光明 大澤 一仁 竹内 博之 柏木 照正
川名 稔 宮村 浩文 北島 正(代理) 鈴木 史洋
山田 ふみ子 渡貫 由季子
會田 勉 山崎 裕子

(敬称略)

座長（山田委員）

私は私学振興課長の山田と申します。よろしくお願ひいたします。本日はご多用の中、また大変暑い中、お越しいただきましてありがとうございます。開催にあたりまして、神奈川県公私立高等学校協議会の設置及び運営に関する要綱第4条第2項に基づき、座長の互選をお願いしたいと思います。従来、私立学校の所管課長である私学振興課長が座長を務めさせていただいております。今年度も同様に私学振興課長が座長を務めさせていただくということで、ご異議ありませんでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それでは、私が座長を務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。なお、本協議会は原則公開とされております。取材、傍聴者等につきましては、既に入室いただいておりますので、ご承知おきください。記者の方から撮影をしたいということで、実際に協議が始まる前に撮影をしていただきたいと思いますのですが、皆様よろしいでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（山田委員）

ではお願ひいたします。（写真撮影後）ありがとうございます。それでは議事に入ります前に、今年度新たに委員またはオブザーバーになられた方をご紹介いたします。お手元に資料があると思いますが、「資料1」といたしまして委員の名簿がついてございますのでご覧ください。まず、川崎市教育委員会事務局 学校教育部指導課長 新田憲委員です。本日は代理で北島指導担当課長にご出席いただいております。次に、神奈川県公立中学校長の代表 阿部康彦オブザーバーですが、本日はご欠席となっております。次に、神奈川県立高等学校長の代表といたしまして、會田勉オブザーバーです。

會田オブザーバー

會田です。よろしくお願ひします。

座長（山田委員）

次に、神奈川県PTA協議会の代表 山崎裕子オブザーバーです。

山崎オブザーバー

よろしく申し上げます。

座長（山田委員）

その他の委員、オブザーバーの方々におかれましては、昨年度に引き続き今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。さて、このたび「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」から7月29日付けで要請文書が提出されております。要請文書の写しを机上に配布していますのでご確認ください。文書を提出された方から口頭陳述の申し入れがありましたので、議事に入る前に陳述の機会を設けたいと思っておりますがいかがでしょうか。

全委員

異議なし。

座長（山田委員）

それでは懇談会の代表の方、会議の時間の関係もございまして、恐れ入りますが3分以内で陳述をお願いいたします。

陳述者

おはようございます。「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」の保永と申します。（資料説明）

座長（山田委員）

それでは、次第に従いまして、議事を進めさせていただきます。まず、議題1の「令和7年度の「高等学校生徒入学定員計画」の策定について」です。例年、当協議会におきまして、翌年度の公私の入学定員計画に係る協議を行い、公私間の合意を得た上で、その結果を「神奈川県公立高等学校設置者会議」に報告しております。協議に入る前に、私の方から昨年度までの定員協議の経過等について、簡単にご説明いたします。定員計画につきましては、平成22年度から3年間は、公立中学校卒業予定者の6割を全日制公立高校の入学定員とする「基本比率」により策定しておりましたが、平成25年度の定員計画策定時に見直しを行いました。その際、比率による定員割り振り方式を採用した経緯や、これまでの実績、進学率の推移等を踏まえた上で、「公立の定員枠のみを決める方式」から、「公私がともに責任を果たす方式」へと見直す必要性について議論がなされました。その結果、平成25年度定員計画は、公私がこれまでの実績、施設や教員の規模等を踏まえまして、全日制進学率の向上の視点のもとに、公私各々が実現を目指す定員目標を定め、その実現に向けて最大限努力することを記載して策定いたしました。これによりまして、全日制進学率は上昇し、不本意入学者数も減少するなど一定の効果がみられたことから平成26年度定員計画以降、同様の方式により策定してきました。昨年度までの経過については以上となります。続きまして、令和6年度入学者選抜の結果を踏まえて、昨年度に策定した計画の検証を行いたいと思っております。まず令和6年度の入学者選抜結果について、事務局から資料の説明をお願いいたします。

事務局

高校教育課より説明させていただきます。（資料3～資料3-5を説明）

座長（山田委員）

ありがとうございます。協議へ移る前に今、説明した資料の内容について、ご質問などございますか。よろしいですか。また途中でも結構ですので、内容について不明な点がありましたら、ご質問いただければと思います。ただいま、令和6年度の入学者選抜結果について説明がありましたが、昨年度に策定した定員計画を踏まえまして、公立・私立それぞれに、入学者選抜結果に対する評価をお願いしたいと思います。まず公立側よろしいでしょうか。

渡貫委員

公立ですけれども、公立としましては、令和6年度入学者選抜では、公立中学校卒業者が減少に転じた中で、前年から900人減らしまして、定員目標を39,850人とさせていただきます。令和6年度県内公立高校の全日制の進学者数が、39,133人で、前年と比較して840人減少しました。定員目標には717人届くことができず、専門学科を中心に定員が埋まらない状況がありました。また、通信制入学者数が増えておりまして、今後、状況を注視するところです。

座長（山田委員）

ありがとうございます。続きまして私学側いかがでしょうか。

田沼委員

私学側といたしましては、14,950人ということで人数を出したのですが、それに少し届きませんで、約380人位届いていないところがございますけれども、まずまずの結果ではないかなと私もは思っております。公募の総数ということを考えますと、県外からの合格、志願者数を考えますと、これは超えておりますので、私学としては良かったかなというような評価でございます。なお、これから中3人口が減っていきますし、それから、通信制に行く子が多くなるという対応をどのようにしていくかということが、これからの課題かな、というふうに思います。

座長（山田委員）

ありがとうございます。他に委員ですとかオブザーバーの方でも結構ですので、ご意見ございましたらお願いいたします。よろしいですか。それでは、また途中でも結構ですので何かご意見ありましたらお願いいたします。続きまして、定員計画の策定方式についてとなります。令和6年度の定員計画は、「公私各々が実現を目指す定員目標を設定する方式」に変更してから12回目となる計画でした。この方式について、改めてご意見をうかがいたいと思いますけれどもいかがでしょうか。公立側いかがですか。

渡貫委員

この方式で定着してきているところかと思しますので、現状の方式でいけたらという風に考えております。

座長（山田委員）

私学側いかがでしょうか。

田沼委員

私学側もこの方式でいくことがよいのかなというふうに思っております。

座長（山田委員）

それでは次に、横浜市教委さんいかがでしょうか。

宮村委員

横浜市です。先ほど令和6年度入学者選抜の結果につきましてご説明をいただきまして、それに対する評価をおうかがいしたところです。全日制の進学率が引き続き減少傾向になっておりますけれども、それでも全体として全日制の進学率がある程度保たれているというのは、これまで行ってきた方式によって定員が決定された成果であると言えると考えております。

座長（山田委員）

川崎市さんいかがでしょうか。

川崎市 北島指導担当課長

川崎市でございます。川崎市といたしましても、これまでの定員を勘案いたしまして一定の成果が認められてきたということで、令和6年度の定員計画の策定方法を継続することが必要ではないかという風に考えております。また様々な数値をお示しいただきました中で、公立中学校卒業者の増減の推移を見ますと、川崎地区の卒業者の増減が多少県とは違った増減を繰り返しながら推移している現状もございますので、このことも考慮していただきながら県全体のバランスを考えて定員策定を行っていただくことが大切ではないかなという風に考えております。よろしくお願いたします。

座長（山田委員）

ありがとうございます。横須賀市さんいかがでしょうか。

鈴木委員

横須賀市も、これまでの検討の経緯を踏まえて策定方式については踏襲していただきたいと考えております。以上です。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それでは、オブザーバーの方にも少しご意見をうかがいたいのですけれども、まず會田オブザーバーいかがでしょうか。

會田オブザーバー

ありがとうございます。私は今、逗子葉山高校の校長をしています。全日制の普通科高校の校長をしておりますが、これまで全日制のクリエイティブスクールの校長もしておりました。定時制の教頭をしていたこともございます。公立、様々な学校があり、様々な生徒の学びを守るという形ですすめているという風に思います。残念ながら定員がありながら定員を割れてしまっている公立が現在あるのは事実なのですが、それぞれの良さをしっかりと伝えながら私学と一緒に進めてまいりたいと思いますので、計画についてはこのとおりでよろしいと思っております

座長（山田委員）

ありがとうございます。山崎オブザーバーいかがでしょうか。

山崎オブザーバー

神奈川県PTA協議会の山崎です。私にも高校生の子どもがいるのですけれども、本当に母親目線というか、まわりでも通信制に通うお子さんが本当に増えてきていて、子どもの友だちでも何人も通信制に通うようになっているのが現状で、今までそういうことはあまりなかったなあと肌で実感しているところがあります。計画はこのまま進めていただきたいです。よろしくをお願いします。

座長（山田委員）

ありがとうございました。皆様から現在の計画の方式で、というお話がございましたが全日制進学率が少し下がってきているところではあるのですけれども、一定の成果があったとの評価をいただいたと考えております。令和7年度の定員計画においては、引き続きこの策定方法を継続することについてはこれでよろしいということではいかがでしょうか、公立側いかがでしょうか。

渡貫委員

その方法でお願いできればと思います。

座長（山田委員）

私学側いかがでしょうか。

田沼委員

この方法でお願いしたいと思います。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それでは、令和7年度定員計画の策定にあたっては、昨年度までの策定方式を継続する方向であることを確認させていただきました。続きまして、具体的な令和7年度の定員計画の内容についてとなっています。資料の4「令和7年度の『高等学校生徒入学定員計画』の策定について（案）」になるのですが、まず先に資料の4-2以下が資料の4に記載した内容の参考となる資料ですので、まずは参考となる資料の方から事務局から説明していただきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

事務局

では、資料の説明をさせていただきます。
（資料4-2～資料4-10を説明）

座長（山田委員）

ありがとうございます。それでは協議に入りたいと思っております。お戻りいただきまして、資料4をご覧ください。資料4ですけれども、令和6年度の定員計画をベースに、「年度」ですとか「公立中学校卒業予定者数」などを令和7年度用に修正するとともに、参考資料のデータを時点更新したものとなっております。この資料に基づきまして、令和7年度の定員計画に記載する内容について、確認をさせていただきます。まず資料4の1ページをご覧ください。初めに冒頭の2段落目の「新型コロナウイルス感染症」に関する部分となります。新型コロナウイルス感染症の感染拡大がございまして、令和3年度の定員計画から、その状況を踏まえた対応についての文章を追加したところですが、令和5年の5月に感染症法上の位置づけが5類に移行したことをうけまして、感染症の状況によっては入学者選抜の実施にあたり必要な検討を行うということを記載しております。令和7年度定員計画におきましても、引き続きこの内容を記載することについて、ご意見をお聞かせいただければと思っておりますがいかがでしょうか。

竹内委員

この文章の中で、上から5行目「新型コロナウイルス感染症を含む感染症」、新型コロナウイルス感染症といえばもう感染症に含まれているのではないかと。この文章に、表現に違和感を覚えるのですけれどもどうでしょうか。「感染症を含む感染症」ということになっているので、少し表現を変えたほうが良いと私は思うのですがいかがでしょうか。

座長（山田委員）

この点につきましては、一旦事務局の方で持ち帰りさせていただきます。もう少し適切な表現になるように工夫したいと思います。それ以外に、そもそもこれを残すことについてはいかがですか。公立側いかがでしょうか。

渡貫委員

表現については、また事務局で検討していただけるということですが、こういった入学者

選抜の実施にあたり必要な検討を行う旨の記載を残していただくことについてはそのままお願いしたいと思います。

座長（山田委員）

ありがとうございます。私学側の竹内委員、残すことについてはいかがですか。

竹内委員

もちろん残していいと思います。まだ5類でまた新型が出てきているようですから、表現を訂正していただけると嬉しいなと思います。

座長（山田委員）

ということですので、表現については少し事務局の方で工夫をさせていただくということで、記載としてはそのまま、確かに今言われるように、冬に向けてどのような状況になるかわからないということもございますので、このまま残すということで進めたいと思います。続きまして、「1 基本的な考え方」についてです。この部分の視点の「三つの視点」ですけれども、これについては引き続き尊重しつつ、平成30年度に「私学の役割」として、「学則で定められた収容定員を踏まえた安定的な学校運営に努め」という文言を追加したところでは、2ページの上のところでは、令和7年度の定員計画の策定に向けて、この「基本的な考え方」につきましても、ご意見などございますか。公立側はいかがですか。

渡貫委員

特にございませんので、このままでお願いできればと思います。

座長（山田委員）

私学側いかがでしょうか。

田沼委員

このとおりでお願いいたします。

座長（山田委員）

それでは、こちらについてはそのまま残すということで決めていきたいと思います。続きまして資料2ページの「2 定員計画の策定」についてです。この部分は、定員計画の方式ですとか、実現を目指す定員目標設定の考え方、などを記載しております。先ほど定員計画の策定方式につきましても、昨年度の方式を継続するという方向性を確認させていただいたところでは、また、公私の募集計画については、例年10月までに公表することを記載しております。この定員計画の策定のところで、何かご意見ありますでしょうか。

竹内委員

(1)の令和7年度の定員計画の方式の7行目、ちょっとまた違和感があるのですけれども。「全日制進学率が概ね向上してきた成果を踏まえ」の「向上」というところが果たしてこれ

でいいのかな。受検生の多様な進路選択から、広域通信制への希望者が増加傾向にあると思います。残念ながら全日制進学率が毎年わずかながら、最近では減少している実態もあります。全日制進学率の向上は目指さないといけないと思いますが、表現を少し変えたほうがいいのではないかなと思うのですがいかがでしょうか。

座長（山田委員）

こちらについては、ここ1、2年の現状とは事実が少し異なる点もあるのではないかとこのことですが、公立側いかがですか。

渡貫委員

竹内委員おっしゃるとおり、実態に合わせた表現を工夫するとよいのではないかと思います。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それではこちらの部分につきましても、全日制進学率の向上を目指すというところは変わらないのかなと思うのですけれども、事実の部分の表現につきましては事務局の方で一旦持ち帰りさせていただきまして、次回の公私協の場において、提案をさせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

竹内委員

よろしくをお願いします。

座長（山田委員）

ありがとうございます。続きまして、資料の3ページをご覧ください。「3 今後の総合的な対応」についてです。こちらにつきましては記載したとおり「基本的な考え方」の各事項を具体化することが記載されておまして、

- (1) 経済的な課題を抱えた生徒の受け入れ対策
- (2) 不登校生徒等の受け入れ対策
- (3) クリエイティブスクール
- (4) 定時制等の受け入れ対策
- (5) その他の対策

について記載しております。この内容につきまして何かご意見ですとか、文章を直したほうがいいというところもちろんご意見をいただきたいところですが、例えば内容について今どうなっているのかとか、そういったことでも結構ですので、ご意見いただければと思いますが、まず公立側の方ではいかがでしょうか。

渡貫委員

全日制進学と併せて定時制等、多様な進路の保証ということもありますので、こういった内容も記載していただけたらと思います。

座長（山田委員）

ありがとうございます。私学側はいかがでしょう。

田沼委員

特に問題ないかと思えます。

座長（山田委員）

ありがとうございます。横浜市さんいかがですか。

宮村委員

横浜市です。様々な課題を抱えた生徒への継続的な対策というのは、これからも継続して求められると考えております。これまでの基本的な考えとして示されております、これら各事項については、引き続き推進していくことが必要だと考えておりますので、このとおりに進めていただきたいと思いますと考えています。

座長（山田委員）

川崎市さんいかがでしょう。

川崎市 北島指導担当課長

川崎市でございます。このまま記載のとおりで異議ございませんので、よろしく願いいたします。

座長（山田委員）

ありがとうございます。横須賀市さんいかがでしょう。

鈴木委員

このような記載で問題ないと思えます。よろしく願いいたします。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それではオブザーバーの方からもご意見いただければと思うのですが、この内容でいかどうかということもあるかと思うのですが、それ以外に、これに書いてあることで疑問点とかありましたらそれもお聞かせいただければと思いますので、會田オブザーバーお願いいたします。

會田オブザーバー

ありがとうございます。このとおりに記載いただければありがたいと思えます。特に公立の高等学校においても不登校生徒の対応に非常に困難を抱えておりますので、この点は入学段階で記載いただくのはありがたいと思えます。よろしくおねがいたします。

座長（山田委員）

ありがとうございます。山崎オブザーバーいかがでしょうか。

山崎オブザーバー

記載のとおりで大丈夫です。不登校の生徒は本当に増えているので、このような記載をしていただけるとありがたいです。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それでは「3」については、現時点ではここに記載のとおりで進めていきたいと思えます。続きまして「4 昼間の時間帯で学ぶ進学率（昼間進学率）の活用」についてなんですけれども、昨今の中学生の進路選択の多様化等を踏まえまして、「全日制進学率」と併せまして「昼間の時間帯で学ぶ進学率」という指標を活用することを例年記載しております。先ほど最初の方に説明しました資料3-2におきましても、「全日制進学率」の隣に「昼間進学率」を記載しておりますけれども、これを活用するというのも例年定員計画に載せております。このことについて何かご意見はございますでしょうか。公立側いかがでしょうか。

渡貫委員

中学生の進路選択の多様化等を踏まえるという意味で、こうした指標は必要かと思えますので、このまま載せていただけたらと考えます。

座長（山田委員）

ありがとうございます。私学側いかがでしょうか。

田沼委員

これはぜひ重視したいと思っております。制度の違いで、昼間と定時ですか、全日制進学率に入れられないというようなことがありますので、実態と離れたものがでてくるといけない。むしろ実態としては、こちらの人数の方が昼間に学ぶ人の数ではないかなという考え方です。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それではこちらについても現在のところはそのまま残すということで決めたいと思えます。それでは資料5ページをご覧ください。こちらの「令和7年度公立高等学校生徒全日制入学者定員の目標設定の考え方及び計画」となります。ここは最終的なまとめの部分となりまして、具体的な入学定員の目標人数を記載するところですので、資料の「・」の3つめが公立、4つめが私立となりますけれども、現時点ではここは空欄としております。これにつきましては、本日、令和6年度入学者選抜の結果を確認したところですので、公立・私立双方が持ち帰っていただき、しっかりと来年度どうするかということにつきましては検討していただき、次回の協議会において協議させていただきたいと思えますが、よろしいでしょうか。

委員一同

異議なし

座長（山田委員）

それでは、本日の協議の結果について整理させていただきます。公私それぞれの立場から、様々なご意見をいただきましたけれども、令和7年度の定員計画につきましては、昨年度に引き続きまして、「公私が自らの責任において実現を目指す定員目標を設定する方式」により策定することで、公私の考えは一致していることが確認できました。そこで公私それぞれが、全日制進学率の向上を推進するために目指す、令和7年度の入学者定員目標をご検討いただいた上で、もう一度お集りいただくようお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか

委員一同

異議なし

座長（山田委員）

ありがとうございます。その際には、先ほどいただいたご意見なども踏まえた協議をしたいと思っております。例年、設置者会議が9月となっております、そこでの報告を目指すことから、次回の協議会につきましては、8月下旬に開催する方向で日程の調整させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。また先程ご意見がありました、新型コロナウイルスのところですか、現状と少し表現が違ってきている部分につきましては、事務局で修正案を作成の上、次回の協議会において提示させていただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

座長（山田委員）

ありがとうございます。それでは、議題についての協議は以上となりますけれども、最後に何かご意見、ご質問ある方いらっしゃいますでしょうか。

委員一同

なし。

座長（山田委員）

よろしいですか。それでは、その他につきましても皆様から何かありますか。特にないということで、本日の議事は全て終了いたしました。委員の皆様、オブザーバーの皆様、大変お忙しい中、ありがとうございました。これをもちまして令和6年度第2回神奈川県公立高等学校協議会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。